

大和三田会 会報

No. 7 2014年12月

Keio University



目次

1) 平成24年 大和三田会・新年会のご報告	- 1 -
2) 第7回大和三田会 総会のご報告	- 2 -
3) 茶の湯体験会：「もう茶の湯なんて怖くない！を目指して」	- 9 -
4) 家族BBQ大会	- 11 -
5) 特別寄稿	
① 「慶応義塾は今」常任理事 真壁利明教授	- 12 -
② 「子供の頃の夢『慶応大学野球部』」菊地 弘会員	- 13 -
6) お知らせ	
①大和を知る 古木家古文書のご紹介	- 15 -
②大和三田会が三田評論に掲載	- 18 -
③大和三田会親睦ゴルフ大会結果報告	- 18 -

1) 平成 24 年 大和三田会・新年会のご報告

大和三田会の新年会が、平成 26 年 1 月 11 日（土）、中央林間の「欧風台所ラ・パレット」にて開催され、会員、会員のご家族、友人、ゲストあわせて、約 40 名の多くの方々のご参加により、盛大な新年会となりました。

太田善夫幹事（昭和 60 年法学部卒）の司会により新年会がスタートしました。

最初に井上勝彦副会長（昭和 36 年経済学部卒）より開会のご挨拶があり、続いて吉村満幹事（昭和 48 年法学部卒）の指揮、石井一夫幹事（昭和 49 年文学部卒）のピアノ伴奏で、参加者全員で慶應義塾塾歌を斉唱しました。

引き続き太田滋大和三田会会長（昭和 23 年工学部卒）より新年の会長挨拶を頂き、富澤篤紘顧問（昭和 38 年法学部卒）のご発声による乾杯が行われました。続いて古木通夫幹事長（昭和 44 年経済学部卒）からゲストの紹介があり、そのあと立食パーティー形式による懇親会が始まりました。

ラ・パレットの美味しい食事や、ワイン（のほか太田幹事差入れによる日本酒）に舌鼓を打ちながら、参加者全員で塾生時代の思い出に花を咲かせました。恒例の大抽選会も開催されました。河野幹事（昭和 40 年経済学部卒）の抽選発表に一喜一憂しながらも、当選された方々は周囲の祝福を受け大喜びでした、

新年会も終盤に近づき、参加者一同肩を組んでの、「丘の上」「慶応賛歌」「若き血」の慶應カレッジソングの大合唱が室内に響き渡りました。

最後に石塚雅男副会長（昭和 40 年経済学部卒）による中締めのご挨拶があり、今年一年会員それぞれの健康・活躍を誓い、新年会は盛会のうちに閉会しました

なお平成 27 年の新年会は平成 27 年 1 月 10 日（土）午後 6 時、中央林間「欧風台所ラ・パレット」にて開催の予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

申し訳ありません！新年会の写真が
入手できず、掲載できませんでした。
次回より、会報委員で撮影いたします。

2) 第7回大和三田会 総会のご報告



平成 24 年 6 月 14 日、横浜うかい亭にて、大和三田会第七回総会および懇親会が開催されました。当日の様子を写真とともに振り返ってみます。まずは太田滋会長(昭和 23 年工学部卒)による開会のご挨拶を頂きました。また、本年度会長が井上勝彦様(昭和 36 年経済学部卒)に引き継がれることとなり、井上新会長からもご挨拶を頂きました。

大和三田会太田滋会長の開会のご挨拶



本日は大変お忙しいところ、大和三田会の総会にご出席頂き、まことに有難うございます。月日の経つのは早いもので、慶応義塾創立 150 周年を記念して、大和市の有力塾員の方々のご尽力により、本大和市にも三田会を盛大に設立することが出来まして以来、今年は早くも第 7 回総会を迎えました。年月の過ぎ去る早さには、今さらながら驚き居ります。

しかし、会自体はますます興隆と言うには少しばかり問題がありますものの、皆さまのお力で今後の発展を期待できますよう、こころから祈念致します。

簡単ですが、開会のご挨拶と致します。



井上新会長のご挨拶

平成26年6月14日に開催されました、第7回大和三田会総会におきまして、2代目大和三田会会長に選出されました、井上 勝彦です。

創立以来6年間、前太田会長様には多岐に亘りご指導賜り、大和三田会を今日まで育てていただきましたこと、会員一同心から感謝しております。今後ご指導賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

総会は太田善夫会員（昭和60年法学部卒）の司会のもと、太田滋会長（昭和23年工学部卒）から開会のご挨拶をいただき、議案の審議に入りました。

第1部 総会の議事内容については次の通りで、原案通り承認されました。

1. 平成25年度事業報告・会計報告承認の件

2. 平成26年度事業計画（案）・予算計画（案）承認の件

今年度は3月に市内多胡記念公園内茶室慈緑庵にて、お茶になじみのない方々も楽しめる茶会を実施しました。

3. 任期満了に伴う役員改選（案）承認の件

主な改選内容は次の通りです。

太田滋名誉会長（昭和23年工学部卒）

前会長

井上勝彦会長（昭和36年経済学部卒）

前副会長

吉村満副会長（昭和48年法学部卒）

前会報委員長

橋本憲和会報委員長（昭和46年経済学部卒）

第2部では、四日市大学教授で日経産業新聞コラムニストでもある当会新田義孝会員（昭和43年工学部卒、同45年修士修了）より、「認知症予防に光明」と題して以下の内容の興味深い講演をいただきました。

認知症の治療は現在確立されていないが、その前の段階に「軽度認知障害」がありこの状態の改善が期待できる対策がある。

その対策のキーワードは「デュアルタスク」で、有酸素運動しながら簡単な足し算や引き算をすると、脳の「海馬」の神経細胞が新生し障害から引き返せるというものである。具体的には

A 左手で膝をたたき続け右手で膝をさすり続ける、合図で左右を入れ替える

B 国の名前を口で次々に言いながら足踏みする

C グーチョキパーの出し方を左右ずらして両手で行う

等様々な運動が考えられる。

また講師の指導で上記Cの運動を全員で行い、戸惑いながらも和気あいあいとした雰囲気の中効果を実感(?)していました。

講演の後参加者全員で夕暮れの庭にでて記念撮影を行いました。

第3部では引続き太田善夫会員の司会のもと懇親会がスタートしました。最初に吉村満会員（昭和48年法学部卒）の指揮、石井一夫会員（昭和49年文学部卒）のピアノ伴奏で慶應義塾塾歌を全員で斉唱しました。

その後石塚雅男副会長（昭和40年経済学部卒）からご挨拶、続いて来賓紹介があり来賓の早稲田大学大和稲門会・日本大学大和桜門会の代表の方々よりそれぞれお祝いのご挨拶をいただきました。

続いて大和三田会顧問富澤篤紘会員（昭和38年法学部卒）のご発声による乾杯があり歓談に入りました。

歓談の途中でゲストの堀内士功（バリトン）河崎恵（ピアノ）ご夫妻の演奏が披露されました。お二人には総会のゲストとして何度も演奏していただいておりますが、その迫力あるバリトンの歌声は、何度聞いても会場に響き渡るすばらしいものでした。当日は「千の風になって」・「トゥーランドット」等3曲、またアンコールに応じて「フニクリフニクラ」を歌われましたが、最後は全員の合唱となりブラボーの声が飛び交い大変な盛り上がりとなりました。

しばらく歓談のあと会のフィナーレも近づき、吉村会員指揮のもと、全員で肩を組み「丘の上」「慶応讃歌」「若き血」を合唱しました。そのあと久しぶりとなる大日方健会員（平成10年商学部卒）のエールでまたまた盛り上がりました。

最後に吉村満副会長による中締めのご挨拶があり懇親会は盛況のうちに閉会となりました。









3) 茶の湯体験会：「もう茶の湯なんて怖くない！を目指して」

2014年3月16日(日)、市営茶室慈緑庵の書院にて裏千家河野宗和宗匠(大和三田会河野和彦事業委員長(昭和44年法学部卒))のご指導のもと茶の湯体験会が開かれました。当日は天候にも恵まれ慈緑庵のある多胡記念公園の緑の中、午前(10時30分より)7名午後(13時30分より)8名にわかれ約1時間半のすばらしい時間を持つこととなりました。

まず最初に濃茶を3・4人で飲みまわし、次に薄茶は一人一碗で頂きました。濃茶は薄茶の2倍以上の濃さでドロツとしており通常は胃を保護するために懐石料理を用意するとのことですが、今回は生菓子を頂きました。

また薄茶には干菓子を頂きましたが何れもお茶を飲む前に食べるとのことでした。

着物を着た若い男女のお弟子さんがお点前を手伝い、その間に宗匠から茶道の歴史・作法等の説明のほか当日のお道具(掛け軸等床のもの・棗(なつめ)・茶杓(ちゃしゃく))菓子について適宜わかりやすい解説と鑑賞の仕方のお話がありました。

(別途河野宗匠より説明の文を頂きましたので後記ご参照ください。)

午前の部ではたまたま茶室を見学に来たというミャンマー人の若い夫婦を茶会に招き入れおもてなしするというハプニングがありました。

宗匠の流暢な英語の説明で作法等を理解しつつお茶の味を体験し、若い二人は大満足の様子でした。

帰る頃には茶の湯の全体像がわかったような気がして、今までの臆する気持ちが自信に変わっているように感じられるとともに、茶の湯のおもてなしの心が少しわかった気がしました。

裏方で手伝っておられた着物姿の奥様も加わり皆様の見送りを受け帰路につきましたが、中央林間駅から徒歩4・5分のところにこんなすばらしい(記念)公園や施設があるんだと何か誇らしい気持ちになりました。

追記

後日河野宗匠より、当日のお茶会の道具等の説明を頂きましたので、そのまま以下に掲載させていただきます。

床(とこ)の短冊の軸は「弄花香滿衣」(花をろうすれば 香りころもに満つ)意味は、野の花を摘めば、その花の香りが衣服に満ち溢れる、ということで対句として「掬水月在手」(水をきくすれば 月 手にあり)があり、それぞれ春と秋のことを読んでいる唐詩の一部です。

花や月といった自然に心を寄せ愛すること、更に一体となることを表現しています。

床には貝の形の香合(香木の容器)もありました。これも春のハマグリなどの貝にちなんだもので、中の香木は白檀でした。

さらに床にもう一点。花は椿と油瀝青（アブラチャン）で花入れは備前焼の徳利型です。点前をした台は「点茶盤」といい、明治初期に京都万博の際に京都を訪れる外国人の為に、裏千家 11 代家元、玄々斎が考案したもので、茶道界初の立札式のもので

点茶盤の上の皆具（水指、杓立、建水、蓋置）は青釉薬（緑色）の木賊（とくさ）絵でこれも春を連想させるものとして使用しました。

次に薄茶容器の棗（なつめ）は春待蒔絵（はるまちまきえ）で、蓋上に「梅」、蓋を開けると「桜」が見える趣向で、山中塗りの作家のもので

茶杓の銘は「千代の春」で大徳寺三玄院の寛州老師の作。

主菓子（金団）の銘が「弥生」、干菓子が土筆（つくし）と蝶を象った和三盆の落雁です。

今回のお茶会のテーマは、お茶になじみのない方々にお茶の道具等を通じて春を味わって頂こうということでした。



4) BBQ大会：家族バーベキュー大会

9月14日（日）、泉の森キャンプ場にて「家族バーベキュー大会」が開かれました。大和稲門会が企画主催したもので、大和桜門会とともに大和三田会も参加させていただきました。好天に恵まれ、澄み渡る青空のもと、次々と作られるバーベキューの味に一同舌鼓を打ちました。終わりに近づいた頃、当会の甘利明顧問も駆けつけ、参加者と交歓し、全員との記念撮影も行いました。

当日の参加者は大和稲門会が19名（大人15名、子供4名）、大和桜門会が4名（大人4名）、大和三田会が23名（大人16名、子供7名）でした。



5) 特別寄稿

① 「慶應義塾は今」 真壁利明会員（昭和 45 年工学部卒）

慶應義塾常任理事 理工学部教授



清家塾長のもとで常任理事を務めている真壁です。大和三田会が太田滋初代会長のもとで発足してから丸 6 年が経過し、井上勝彦現会長のもと順調にご発展の様子、お慶び申し上げます。歴史ある古里が発展するなかで、大和三田会の皆様の活発な活動を拝見し、私にとってもなによりうれしく思います。最近の慶應義塾を塾員の皆様に簡単に紹介しましょう。

およそ 3 万人の学生(塾生)が 10 の学部と 14 の大学院研究科に在籍し、常勤の教員研究者およそ 2200 名と、これとほぼ同数の非常勤講師が教育と研究に当たっています。大学生の 35%が女子学生です。首都圏からの自宅通学生も増加し続け 70%を超えています。「学問のすゝめ奨学金」が地方出身の塾生の増加を図る目的で設けられるなど、慶應義塾の奨学制度は国内最大規模となっています。6 つの主キャンパス(三田、日吉、信濃町、矢上、湘南藤沢、芝共立)に加え、研究を主とするタウンキャンパス(新川崎、鶴岡)を設け、教育・研究とこれをもとにした社会貢献にあたっています。福沢諭吉先生の生誕の地(大坂)のグランフロントには、大阪シティーキャンパスが開設され講座も開講されています(詳細は各ホームページをご覧ください)。塾員の数はおよそ 34 万人です。連合三田会のもとに 860 を超える数の各三田会が国内外で組織され活動されており、大和三田会もこの一つです。例年、塾長主催による卒業 51 年以上の塾員招待会には 4200 名を超える皆様が集まり、日吉キャンパスで旧交を温められます。塾員の皆様が生涯にわたって義塾と強い絆で結ばれているところに慶應義塾の大きな特徴があります。

創立 150 年を盛大に祝ったのはつい昨日のことのようですが、あれから 6 年が経過し、今年には理工学部が創立 75 年を、来年には湘南藤沢キャンパスが 25 年を、2017 年には医学部が創立 100 年の節目の年を、慶應義塾の歴史に刻みます。各キャンパスでは 21 世紀の中庸に向け更なる国際的な発展を掲げ、周年事業が企画され募金活動も行われています。

グローバル化が進む中で、慶應義塾と海外著名大学との間で両大学(大学院)の学位が同時に取得できる DD(Double Degree)プログラムや、国内で複学位が短期間で取得できる JD(Joint Degree)制度が運用され、慶應義塾に軸足を置いて、国内外の複数の大学機関で教育や研究指導を受ける時代へと向かっており、キャンパスの学生も多彩になっています。

21 世紀はライフサイエンスの時代であるとともに地球修復の実践時代です。いずれも非常に複雑なシステムが対象です。その研究や技術開発にあたって、多数の学術分野が協働し文理融合して初めて解決の糸口が見いだせる類の大きな対象です。学部間の垣根が比較的低い慶應義塾が総合力を発揮する時代です。この時期が日本では急速な少子化が進む時代と重なります。これまで以上に高度人材育成が重要となる所以です。慶應義塾は大学院 5 年(修士・博士)一貫のリーディング大学院プログラムを設け、骨太の専門性はもちろん、社会の上級マネージャによるメンタリングのもと強い使命感を持った博士人材を国際的企業、国際機関、行政などに輩出してゆく方針です。

2014 年度は文武両道の人材を社会に輩出してきた慶應義塾にとって、キャンパスがわく出来事が続きました。4 月には早慶レガッタで優勝し、6 月には東京 6 大学野球で 34 回目の優勝を果たし、神宮外苑から三田キャンパスまで 3000 名の塾生・塾員などがパレードに参加しました。末筆ですが、大和三田会の皆様のご発展を祈念しております。

(2014 年盛夏のころ)

②子供の頃の夢「慶応大学野球部」 菊地弘会員

(昭和 45 年経済学部卒)

私は昭和 45 年に慶応大学経済学部を卒業し、(株)西武百貨店に入社し、現在は大和市議会議員として 3 期目を経て、今年度大和市議会議長を務めております。

小学校 4 年生から野球を始め、40 歳迄プレーをし、野球とは切っても切れない人生であると思っております。林間小学校の時は、放課後に仲間が自由に集まって、練習をしました。現在は 16 チームによるリトルリーグがあり定期的に試合が組まれているようですが、その頃は他の小学校の仲間たちと連絡を取り合って土日に試合を組む状況でありました。大和中学校に進み、野球部に入部し、本格的に野球の生活がスタートしました。野球部には 30 人程が入部しましたが、1 年生は玉拾いとグラウンド整備、キャッチボールが主な仕事で、バッティング練習が出来始めたのは 2 年生になってからと記憶しております。練習は毎日で、顧問の座間陽二先生を中心として 3 人の外部コーチに来て頂き、ボールが見えなくなるまで練習をし、休みは試験の前日と正月 3 ケ日くらいでありました。雨の日は体育館でのバットスイングやトレーニングと教室を使ってルールや様々なケースを想定した、勉強をしました。3 年生になったときには同級生で残ったメンバーは 9 人となり、私はショートで 1 番の打順をまかされ、出塁率の高い 1 番バッターであったと自負しております。地区予選を勝ち抜き、準決勝で優勝した大鳥中学に負けましたが、ベスト 4 に残り、いまだに和中の野球部ではこの記録が破られてはいないとのこと。中学時代に体力や、勉強する事、粘り強さ、チームワーク等が鍛えられたと思っております。その時

に3番4番を打っていたバッテリーと私とで希望が丘高校に入学し野球部に入部いたしました。入部してまもなく、希望が丘高校野球部の先輩で古橋さんという方が慶応大学の野球部でキャッチャーとして活躍していた話を聞き、私も慶応大学に入り野球部に入部して活躍したいという大きな夢が広がってきました。しかしながら、1年生の夏の合宿において、渡り廊下のコンクリートの上で正座を組まされ、ひざが骨膜炎を患い、2ヶ月ほど松葉杖の生活となってしまいました。同時に父親が47歳で胃がんにより他界してしまいました。

このまま野球を続けるか大変悩みましたが、現役で慶応大学に入る為に、野球部の退部を決断し、2年3年は勉強付けの日々を送りました。晴れて入学し、日吉の野球グランドに行きましたが、多くの同級生が来ており、又2年間のブランクがあることから、入部は断念いたしました。しかしながら毎年の早慶戦には仲間たちと必ず見に行き、自分がグラントに立っている気持ちで熱い声援を送りました。在学中は大和中学校野球部のコーチとして、後輩の指導に当たるとともに、和中野球部OB有志により大和クラブを結成し、大和市野球連盟に加入し、Cクラスから勝ちあがり、Aクラスで試合をするとともに、西武百貨店入社後は、準硬式の野球部に所属し、各百貨店対抗等の野球を行い、40歳のときに有楽町西武の総務部長の任についたのを契機として、現役を引退いたしました。現在は大和中学校野球部OB有志の会を結成し、会長として、野球部を側面からバックアップするとともに、OBの懇親の輪を広げております。大和スタジアムも改装され、来年度には横浜ベイスターズのオープン戦や、公式戦等の開催や子供たちの野球教室開催の為に、交渉を進めているところであります。



6) お知らせ

① 大和を知る 古文書のご紹介

それは大和に受け継がれる文化 大和相伝



目録一・二の完成までに費やされた年月は、実に30余年

古木家文書

江戸・明治時代の大和市下鶴間村
政治と文化・村の人の暮らしを紐解く「古木家文書」

ふるまきさこ
中央林間 古木昌子さん

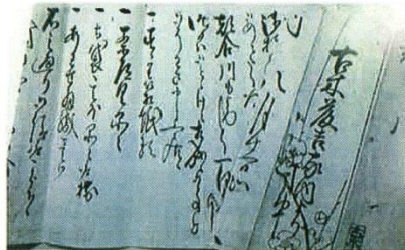


江戸・明治の大和北部の姿を、代々受け継がれた文書を、読み解く事で歴史を紐解いたのは、大和北部（公所）の名主であった「古木家」十四代目故・弘造さんの奥様「古木昌子さん」。

相州高座郡下鶴間村公所
古木家文書 目録一・二

それは、古い手紙や公的な文書。江戸・明治時代の人々の直筆の書だ。幕府や地頭所からの命令・指示、願い書や訴え状などの公的の文書の他、古木家を始めたとする覚書や私信など、多くの種類の文書を解読し、「目録」を昌子さんが制作。目録というと、ただ文書の題目だけが綴られるイメージだが、昌子さんは文書の中身を幾行かに要約した「内容」も目録一覽に記した。「最初は、夫がやり残したことを、義務感で始めて。正直、面倒だなあと考えたことも（笑）」しかし昌子さんは文書を読み解き、土地の歴史を紐解くうちに、いつの間にか「面白い」という興味に変わっていったそうだ。

例えば右下の文書。
注目すべき点のひとつ。この時代に、「小さな田舎の村」の一人の女性が「文字」を書いているという事。それらの手紙の中には、「村の様子」や「家・家族の出来事」「安否を気遣う言葉」などがたくさん記されていた。
しかし、これらの古文書を読む事は大変難しく、昌子さんは専門の教室に通い、読み解く術を身につけ、この目録一・二（文書数三三四一点）を仕上げるのに三十年もの月日が流れた。「もうこれが最後の仕事だと思っ



上の写真は原文書（左）と、原文を1点1点解読し、
全てを手書きで原稿用紙へ書き写した。釈文原稿（右）。



て」笑って穏やかに朗らかに話される昌子さんの願いは、大和市の旧家にある古い文書等を、出来るだけ解読・公開して残して行くこと。古木家だけではなく、大和市に古くから住む家々にある「歴史的な文書や物」が、場合によっては知らずに廃棄される事も多いらしい。

是非、それらをつきみ野にある「ふる舞の里歴史資料館」などに提供し、更なる大和の歴史発掘へ繋がることも願いの一つである。
解読された古木家文書も、ふる舞の里歴史資料館へ寄託され、文書をご覧になりたい方の為に、原文やコピーも預けてある。

古木家文書に見る

江戸・明治時代の下種屋村



『古木家文書目録二』 発刊の御案内

平成十六年十月に発刊した「古木家文書目録一」の続編「古木家文書目録二」が平成二十五年十月に刊行されました。

神奈川県大和市北部の村、下鶴間村公所の名主古木家。

江戸の一部（九一六点）と明治（一四一五点）の目録です。

一点一点について詳細な解説を試みた内容です。

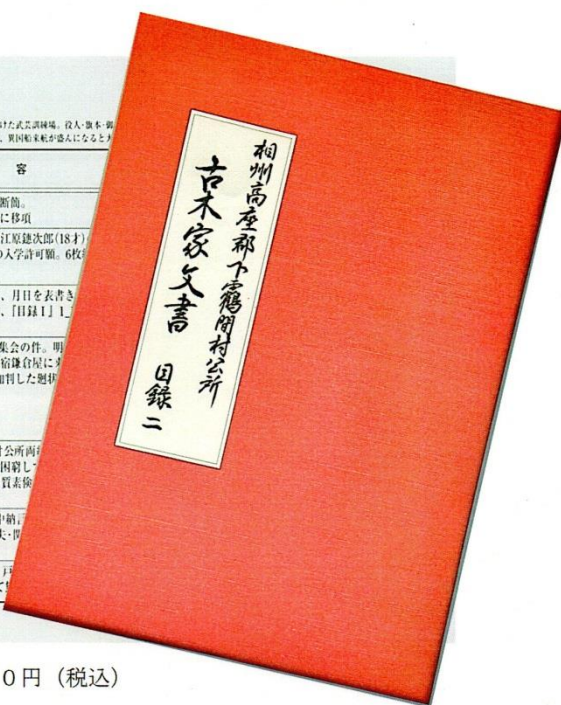
相州高座郡下鶴間村公 古木家文書 目録二

江戸

1_1 支配

※1 講武所——江戸幕府が幕末に設けた武士訓練場。役人・旗本・御始めは講武場を設立、新田村長が個人になるところ

番号	和 暦 西 暦	表 題	内 容
1	文政9年9月 1826	(申達状)	本文末の1行と月日のみの断簡。 『目録1』1_1-45(宛)後部に移項
2	(文久1年) 1861	廻書修行	《廻書修行簡》小書詰組13代江原越次郎(18才)した講武所 ^{※1} 総務部門への入学許可願。6枚、2包を差し出すと付記
3	丑7月25日	上包	差出所・差出人、宛所・宛名、月日を表書き面には書状離立ての依頼文。『目録1』1_1本文書状なので、移項
4	11月18日	急廻草	《廻状》戸塚宿から7村へ、集会の件。明治改革勘定をするので、戸塚宿鎌倉屋に宛当文書は6村名主が別付け加付した廻状
5	(不詳)	(村方面給読定)	《議定・後欠・下書》下鶴間村公所両所節約の件。近年不作続きで困窮して申し合わせて、今後10年間、買麦俵(婚札・葬儀・香請など)
6	(不詳)	(書写)	《前後欠》尾張中納言・本村中納言・松平儀守守・細川石京大夫・中納言はかの勘助
7	(不詳)	(書状)	《後欠・下書》無尽設立の件 江戸通知。高座で掛け金を定めて



定価 2,700円(税込)

目録のほか、解題、村役用日記帳などから見る村、古木家の人々、種痘祝、古文書の裏打ち、明治以降の公所の記事と、三通の古文書と積文が掲載されています。

尚、ご興味のある方は「古木家文書目録一」も合わせてご購入下さい。(残り僅か)

編集・発行

株式会社 永屋

〒242-0007 神奈川県大和市中央林間4-27-3

TEL 046-293-5252 FAX 046-273-0715

委託販売

株式会社 古木企画

〒242-0007 神奈川県大和市中央林間4-27-3

TEL 046-276-5228 FAX 046-273-0715

②大和三田会が三田評論に掲載！

大和三田会の紹介が下記内容で三田評論 26 年 8・9 月号に掲載されました。

記

6 月 14 日（土）横浜うかい亭にて 40 名余が出席し大和三田会第 7 回総会が開催されました。

当会は、慶應義塾創立 150 周年の記念の年であり、また翌年は大和市制 50 周年となる平成 20 年に設立発足した比較的新しい三田会です。会員数 100 名余で、毎年家族も参加できる総会・新年会のほか、バス旅行等の企画・有志によるゴルフ会等会員相互の親睦を図っています。

当日は大和稲門会・桜門会よりの来賓の方々も出席され、事業・会計・役員改選等の議事のあと当会会員の新田義孝氏より「認知症予防に光明」と題した講演があり、懇親会ではゲストの堀内士功（バリトン）河崎恵（ピアノ）夫妻による歌唱等を堪能しました。

また「塾歌」「慶応賛歌」「丘の上」「若き血」で大いに盛り上がったことはいまでもありません。

[2 頁に掲載の集合写真も載せてあります] (橋本記)

③ 大和三田会親睦ゴルフ大会結果報告

第 10 回 4 月 16 日（水曜日） 大厚木カントリークラブ 参加 9 名

優勝 菊地 弘さん（昭和 45 年経済学部卒）

準優勝 早川雅巳さん（昭和 38 年商学部卒）

三位 渡邊悦元さん（昭和 39 年経済学部卒）

第 11 回 10 月 30 日（木曜日） 小田急藤沢ゴルフクラブ 参加 12 名

優勝 村田直樹さん（昭和 47 年法学部卒）：：ホールインワン達成！

準優勝 大岡正明さん（昭和 40 年法学部卒）

三位 鈴木 博さん（昭和 50 年医学部卒）



平成 27 年 新年会 平成 27 年 1 月 10 日 (土曜日)

午後 6 時 中央林間「欧風台所 ラ・パレット」

にて開催予定です。



大和三田会